

# 中期経営計画

(平成 27 年度～平成 31 年度)



公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

# 目 次

I	経営方針	1
II	経営目標	1
III	経営指標	1
	1 舞台芸術作品の提供等に関する事業	1
	2 芸術文化活動等の場の提供に関する業務	2
IV	実施方策	2
	1 舞台芸術作品等の創造・発信に関する事業	2
	2 芸術文化活動等の場の提供に関する事業	3
	3 芸術文化活動の支援及び人材の育成並びに国内外との交流	4
	4 経営基盤の強化	4
	5 その他必要な方策	5
V	財務計画	5
	別表 財務計画（平成 27 年度～平成 31 年度）	

## I 経営方針

当財団は、平成5年7月1日に、県民の皆様が優れた舞台芸術等の芸術文化に身近に接する機会を提供し、また、芸術文化活動の支援等により、芸術文化の振興を図ることを目的として、埼玉県的全額出資により設立された。平成23年度には民法改正等の公益法人改革の中で公益財団法人へ移行し、財団の目的を果たすための組織体制の整備を図り、現在に至っている。

この間、埼玉ならではの舞台芸術作品を数多く創造、発信、提供するとともに、彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館及び熊谷会館の管理運営を適切に行うなど、本県の芸術文化の振興に資するための事業を数多く実施してきた。平成26年10月15日には、彩の国さいたま芸術劇場が開館20周年を迎えることができた。一方、平成27年3月で県北部地域の文化振興の拠点である熊谷会館が廃止、閉館される。また、平成27年10月から埼玉会館では老朽化に伴う改修工事が埼玉県により実施され、この間休館となる予定である。

本中期経営計画期間においては、彩の国さいたま芸術劇場と埼玉会館の2館体制となり、彩の国さいたま芸術劇場は開館25周年を、埼玉会館は、旧館である「御成婚記念埼玉會館」開館から90周年（現在の埼玉会館開館から50周年）を迎える。また、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けた関連事業も実施していく。

当財団は、新たな10年を「第3の創業」期と位置づけ、これに向けて、これまでに培ってきた実績と経験を踏まえた更なる経営改革に取り組むとともに、新たな視点から事業体制の見直しを行い、より一層の芸術文化の振興を図るため、次の方針に基づいた経営を行う。

- 1 舞台芸術作品等の創造・発信及び芸術文化活動等の場の提供
- 2 芸術文化活動の支援及び人材の育成並びに国内外との交流
- 3 上記を実現するための経営の健全化及び経営基盤の強化

## II 経営目標

### 1 「真に創造し世界に発信する公共劇場」への挑戦と「地域づくりの核」としての役割の徹底

- (1) 「第3の創業」を迎え「芸術文化の殿堂」の名にふさわしい総合プロデュース力と芸術監督制度の拡充による世界が評価する創造性あふれる企画の提供
- (2) 「埼玉会館の歴史的な価値」の再発見とその発信による新たな利用者層の発掘
- (3) 地域の賑わいを創出し「地域づくりの核」としての役割の徹底

### 2 芸術文化の涵養並びに芸術文化界全体を担う人材の育成

- (1) 「彩の国さいたま芸術劇場」と「埼玉会館」以外で実施する事業の創出
- (2) 舞台技術のノウハウ等を生かした人材の育成を図るための連携強化による芸術文化界の牽引

### 3 高い芸術性と採算性のバランスを意識した効率的な経営

中長期的な財団経営体制を確立し、公の施設の管理者としての効率性の追求と収支構造を意識したマネジメント改革の実践

### Ⅲ 経営指標

#### 1 舞台芸術作品等の創造・発信に関する事業

区 分	目標数値	備 考
収 支 比 率	50%	事業に係る経常収益÷事業に係る経常費用×100
有料公演チケット販売率	80%	販売席数/設定席数
公 演 満 足 度	90%	

#### 2 芸術文化活動等の場の提供に関する事業

区 分	彩の国さいたま 芸術劇場	埼 玉 会 館	備 考
施 設 利 用 率	85%	75%	利用日数/利用可能日数×100
施設利用満足度	90%	90%	

### Ⅳ 実施方策

#### 1 舞台芸術作品等の創造・発信に関する事業

今まで培ってきたプロデュース力をさらに充実させ、「創造する劇場」である彩の国さいたま芸術劇場では、演劇、舞踊、音楽の3分野の事業を中心に、国内外に向けて創造・発信していく。また、埼玉会館では、リニューアル・オープンを記念した企画やホールの特性を活かした公演等を実施する。

さらに、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックの気運醸成のためのプロジェクトを実施する。

(1) 彩の国さいたま芸術劇場	
区 分	実 施 内 容
演劇部門	○蜷川幸雄芸術監督の演出作品を中心とした公演等の実施 ・劇場の看板事業である「彩の国シェイクスピア・シリーズ」公演 ・芸術劇場独自の演劇集団「さいたまゴールド・シアター」及び「さいたまネクスト・シアター」公演 等
舞踊部門	○コンテンポラリー・ダンスを中心とした公演等の実施 ・国内外で活躍するアーティストとの共同制作公演 ・次世代を担う中堅、若手ダンサーによる新作公演 等
音楽部門	○リサイタル、室内楽、古楽アンサンブルを中心とした公演等の実施 ・国内外の一流アーティストによる質の高い公演 ・埼玉独自の企画によるシリーズ公演 等
そ の 他	○NPO法人等と提携した映画上映会の実施 ○演劇・舞踊・音楽の部門にとらわれない親しみやすい公演等の実施

<p><b>(2) 埼玉会館</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大ホールの特性を活かしたオーケストラを中心とした公演等の実施</li> <li>○リニューアル・オープン記念公演や地元商店街等と連携した低廉な料金で気軽に楽しめる「ランチタイム・コンサート」公演の実施</li> <li>○日本の伝統芸能である狂言公演等の実施</li> </ul>
<p><b>(3) 地域振興・五輪関連企画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○県北部地域での「歌舞伎」公演等の実施</li> <li>○2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けたプロジェクトの企画・実施</li> <li>○さいたまトリエンナーレへの協力</li> </ul>
<p><b>(4) 営業宣伝・広報</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○チケット販売促進のためのより効果的な営業手法の導入</li> <li>○「メンバーズ」及び「サポーター」等会員制度の運営・拡大</li> <li>○ホームページの運営及び情報誌の発行</li> </ul>

## 2 芸術文化活動等の場の提供に関する事業

利用者等が安心して利用できる場の提供のため、よりよいサービスと施設の維持・管理に努めるとともに、施設の持つ特性を活かし、さまざまな情報を発信することにより、顧客の確保と新たな利用者の発掘をしていく。また、地元市や経済団体等と連携し「地域づくりの核」としての役割を徹底していく。

<p><b>(1) 利用者サービス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ホスピタリティを持ったサービスの提供</li> <li>○窓口業務スタッフと舞台技術スタッフの連携による照明・音響等の技術支援サービスの提供</li> <li>○アンケート等による利用者ニーズの把握</li> </ul>
<p><b>(2) 施設の維持・管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○利用者等の安心・安全の確保のための計画的な予防保全</li> <li>○設備・機器等の不具合発生時の迅速かつ適切な処理の実施</li> <li>○安全環境の維持と安全対策の強化のための情報の共有化とレベルアップ</li> </ul>
<p><b>(3) 施設の特性を活かした情報発信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○彩の国さいたま芸術劇場 舞台芸術専門劇場である「創造する劇場」としての情報発信</li> <li>○埼玉会館 歴史ある文化施設の再発見による情報発信</li> </ul>
<p><b>(4) 「地域づくりの核」としての役割</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○さいたま市との連携</li> <li>○地元自治会及び地元商店街・企業等との連携</li> </ul>

### 3 芸術文化活動の支援及び人材の育成並びに国内外との交流

舞台技術を中心とした芸術文化活動の支援をするとともに芸術文化活動への参加による人材の育成を図る。また、大学や他の公共劇場等とのネットワークの活用により芸術文化の振興を図る。

<b>(1) 芸術文化活動の支援</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>○照明・音響・舞台の各分野で高度な技術を持つ専門職員による利用者への知識、技術力の積極的な提供と適切なアドバイスの実施</li><li>○舞台芸術活動の中心的役割を担うための多様な技術支援サービスの他団体等への提供</li></ul>
<b>(2) 人材の育成</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>○県民に芸術作品に触れる喜びと芸術文化活動に参加することの素晴らしさを伝えることによる芸術文化の裾野の拡大<ul style="list-style-type: none"><li>・体験型・参加型プログラム及びアウトリーチ事業などを実施</li><li>・県内の文化団体や教育機関等と連携した取り組みの実施</li></ul></li><li>○「さいたまネクスト・シアター」等、次世代を担う舞台俳優の育成</li><li>○大学と連携した「アートマネジメント講座」の提供とインターンシップの受け入れ</li></ul>
<b>(3) 国内外との交流</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>○他の公立文化施設との連携促進と最新情報の共有化による専門劇場の複雑な舞台機構設備の安全な運営</li><li>○埼玉県の拠点施設として県内各施設への舞台技術等に関する情報提供や安全意識の普及努力</li><li>○各種公演に関する海外からの招聘等への積極的な対応</li></ul>

### 4 経営の健全化及び経営基盤の強化

公の施設の管理者としての効率性の追求と収支構造を意識するとともに、これまで築き上げた芸術文化のレベルを低下させることなくマネジメント改革を実践していく。

<b>(1) 新たな組織体制による収支構造の改善策の検討・実施</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>○広報戦略を通じた収益向上策の検討・実施</li><li>○財団内の各情報の一元管理化による管理体制の徹底と効果的な経費節減策の検討・実施</li><li>○制作部門と営業部門の統合による連携強化に伴うより効果的な営業・宣伝活動の検討・展開</li><li>○制作部門における演劇・舞踊・音楽各担当の相互補完による効率的な業務執行体制の確立</li><li>○適正な料金設定と新たな分野における収益事業の検討・実施</li></ul>
<b>(2) 実施公演等の再構築</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>○演劇・舞踊・音楽の鑑賞型公演における実施事業全体の見直しによる事業構成の再構築</li><li>○参加・育成型公演において新たな事業も視野に入れたより効果的な事業構成の再構築</li></ul>
<b>(3) 施設管理等におけるコスト削減策の実践</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>○契約手法等の随時見直しを実施し、競争性の確保によるコスト削減</li><li>○修繕の計画的な予防保全も含めた所要経費執行上の必要性、緊急性の検証と費用対効果を意識したコスト削減の徹底</li></ul>

## 5 その他必要な方策

円滑な事業推進のため、職員のスキルアップ等次のような取り組みを行う。

<b>(1) 職員の意識改革</b>
○職員一人一人が様々な改革を推進していくための取り組みについて理解を深め、それを実施していくための意識改革の推進
<b>(2) 研修の実施</b>
○県指定出資法人で構成する公社等連絡協議会で実施する研修プログラムを活用し、職員の職位に応じた研修の積極的な受講促進 ○業務に必要な職員の能力向上のための実務研修や派遣研修の実施または参加の促進
<b>(3) 成果主義に基づく評価制度</b>
○職員個々の成果や実績を適正に評価し、給与等に反映させる能力評価制度の継続実施 ○公正な処遇・適材適所の人員配置の実現と職員の能力開発と意欲向上の促進 ○必要に応じた制度の見直しの検討・実施

## V 財務計画

平成27年度から平成31年度までの財務計画は、別表のとおりとする。

## 別表

## 財務計画（平成27年度～平成31年度）

（単位：千円、％）

区 分	H26 予算	H27 計画		H28 計画		H29 計画		H30 計画		H31 計画	
	金 額	金 額	対26比								
収 益											
地方公共団体受託事業収益	1,152,216	1,035,432	89.9	985,432	85.5	1,035,432	89.9	1,035,432	89.9	1,035,432	89.9
公演票券収益	243,927	227,340	93.2	296,462	121.5	310,665	127.4	296,462	121.5	306,568	125.7
利用料金収益	301,834	179,986	59.6	97,107	32.2	291,460	96.6	301,177	99.8	307,299	101.8
受取会費	10,000	10,800	108.0	10,000	100.0	10,000	100.0	10,000	100.0	10,000	100.0
受取地方公共団体補助金	122,140	118,693	97.2	116,033	95.0	116,033	95.0	116,033	95.0	122,140	100.0
受取国庫補助金	70,000	70,000	100.0	60,000	85.7	60,000	85.7	60,000	85.7	60,000	85.7
受取民間補助金	17,900	21,359	119.3	26,800	149.7	26,800	149.7	26,800	149.7	26,800	149.7
受取民間助成金	8,000	9,500	118.8	9,500	118.8	9,500	118.8	9,500	118.8	9,500	118.8
その他収益	42,477	55,106	129.7	48,946	115.2	55,819	131.4	56,182	132.3	56,143	132.2
当期収益合計	1,968,494	1,728,216	87.8	1,650,280	83.8	1,915,709	97.3	1,911,586	97.1	1,933,882	98.2
費 用											
舞台芸術作品創造等事業費	535,723	463,531	86.5	496,258	92.6	523,184	97.7	511,766	95.5	538,285	100.5
活動の場提供等事業費	1,051,750	820,101	78.0	776,103	73.8	998,164	94.9	1,000,028	95.1	992,839	94.4
広報等事業費	43,929	39,390	89.7	40,062	91.2	41,314	94.0	41,314	94.0	43,489	99.0
事務費	39,215	34,903	89.0	34,046	86.8	35,110	89.5	34,476	87.9	35,110	89.5
人件費	363,512	370,291	101.9	303,811	83.6	317,937	87.5	324,002	89.1	324,159	89.2
当期費用合計	2,034,129	1,728,216	85.0	1,650,280	81.1	1,915,709	94.2	1,911,586	94.0	1,933,882	95.1
当期正味財産増減額	△65,635	0		0		0		0		0	

（注）平成26年度には、熊谷会館の予算が含まれている。